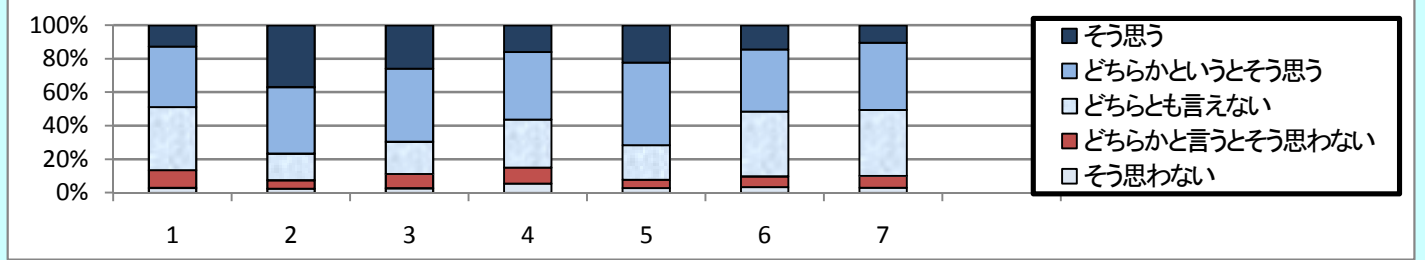


政策番号	9	政策分野	観光									
基本方針	「5000万人観光都市」を実現した京都観光は、「量の確保」とあわせて、「質の向上」を図り、「旅の本質」を堪能できる世界で一番のまちをめざす。そのため、「観光スタイルの質」と「観光都市としての質」の向上に取り組む。 また、京都の都市特性を生かした世界に冠たる国際MICE都市～国際会議，企業研修旅行，イベント等による国際集客都市～への飛躍をめざす。											
担当局		産業観光局				共管局						
政策の評価												
1 客観指標評価												
指標名				23年度 評価値	32年度 目標値	年 度	年 度	23年度評価				
								前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	京都で感動した観光客の数(万人)			3,929	-	-	-	-	3,929	5,000	78.6%	c
2	-			-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	-			-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	-			-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	-			-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	-			-	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価												c
2-1 市民生活実感評価												
番号	設問						評価					
							年度	年度	23年度			
1	じっくり滞在し、ほんものとふれあい、歩いて楽しむ観光客が増えている。						-	-	b			
2	京都は、観光客にとって質の高い観光都市である。						-	-	a			
3	京都市民は、四季折々の京都観光を楽しんでいる。						-	-	a			
4	京都は、市民にとってくらしやすい観光都市である。						-	-	b			
5	京都市民は、観光客を温かく迎えるなど、京都観光の振興に協力的である。						-	-	a			
6	子ども連れの家族や若者、ビジネス客など、新たな京都ファンが増えている。						-	-	b			
7	京都は、国際会議などが盛んに開かれるMICE(企業のミーティング、企業研修旅行、国際会議、イベントなどの総称)都市になってきている。						-	-	b			
8	-						-	-	-			
市民生活実感調査総合評価									a			



2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

年度		年度		23年度	
順位	%	順位	%	順位	%
-	-	-	-	7	24.0%

3 総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている	年度	-
【客観指標】・京都で感動した観光客の推計は、8割近く感動していただいているものの、全員に感動していただくという高い目標を掲げていることから、c評価となった。 【市民の実感】・多数回答を総合すると、京都は観光客も市民も楽しめる質の高い観光都市であり、市民は観光客のもてなしに協力的であると、かなり肯定的な回答が多い。また、滞在型のほんものと触れ合う観光や、観光都市での暮らしやすさ、新たな客層の掘り起こしなど、5,000万人観光都市実現後に重点化した課題についても、やや肯定的な回答が多い。 ・国際MICE都市に関する設問も、やや肯定的な回答が多く、京都の国際MICE都市としてのイメージが浸透しつつあることがうかがわれる。 【総括】・市民の実感が客観指標を上回り、観光という京都の強みが反映された結果となった。 ・こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的はかなり達成されていると評価する。		年度	-

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価>

施策番号	施策名	評価結果			参照ページ
				23	
0901	観光スタイルの質の向上	-	-	B	119
0902	観光都市としての質の向上	-	-	A	121
0903	国際MICE都市～国際会議、企業研修旅行、イベント等による国際集客都市～への飛躍	-	-	B	123

<今後の方向性>

- ・平成15年にスタートした「国家戦略としての京都創生」の取組は、景観・文化と共に観光を柱としているため、これからも国に対し、世界各国からの観光客誘致やMICE振興等の更なる取組をより一層強く求めていくこととしている。
- ・平成12年に宣言した「観光客5,000万人構想」を目標より2年早い平成20年に達成したことを受けて、京都観光は「量の確保」と併せて「質の向上」を図ることとし、平成22年3月に策定した「未来・京都観光振興計画2010+5」に基づき、7つのプロジェクト「暮らすように旅する」「歩いてこそ京都」「市民の京都再発見」「心で“みる”京都」「観光客の不満をゼロに」「新たな京都ファン獲得」「京都の魅力うまく伝える」を動かすこととしている。
- ・平成23年1月には、観光庁との共同プロジェクト「観光立国・日本 京都拠点」を開始し、ノウハウやネットワーク等の融合により外国人観光客受け入れた環境の充実やラグジュアリー層の誘致等に取り組むこととしている。
- ・平成22年3月、MICE誘致を重要政策に位置付け、全国初となる「京都市MICE戦略」を策定し、受入環境の整備、積極的な誘致施策の推進、市民参加によるMICEの振興、戦略推進のための体制強化等を図ることとしている。
- ・平成23年3月に策定した「岡崎地域活性化ビジョン」では、岡崎地域について、国際観光拠点・MICE拠点としての機能強化を図ることとしている。
- ・平成23年3月の東日本大震災とそれに伴う原子力発電所の事故により、京都観光は大きな影響を受け、震災直後は宿泊施設の状況が平年の5割から6割まで落ち込んだ。その後、同年6月からは回復の兆しが見えているものの、今後も観光景況を注視する必要がある。

政策名	9	観光
-----	---	----

指標名	京都で感動した観光客の数（万人）		
-----	------------------	--	--

担当部室	観光部	連絡先	2 2 2 - 4 1 3 0
------	-----	-----	-----------------

1 指標の説明

京都で感動した観光客の数

2 指標の意味

京都観光が目指す「量の確保」と「質の向上」に向けた進み具合を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：観光客数×感動があった人の割合（アンケート調査の「京都市観光に感動があったか」という問いに対して「あった」と答えた人の割合）
出典：京都観光総合調査

4 数値

10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	3,929	-	

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	年度	22年度		数値	根拠	達成度
数値	-	3,929		5,000	観光客約5,000万人全員に感動していた だくことを目標とする。	78.6%

	全国順位	中長期目標			
		数値	目標年次	達成度	根拠
数値					

備考

数値の公表時期の関係により、評価は推計値で行う。
前回数値については実数に修正する。

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：80%以上～100%未満
c：60%以上～80%未満
d：40%以上～60%未満
e：40%未満

6 基準説明

当該指標については、民間部門の寄与度が比較的高く、景気動向にも影響を受けるものの、目標を上回ることとは不可能ではないため、100%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

		23
-	-	C